

「おた文化の森」が
新しくなりました。

夏号目次

■ 運営協議会は今

大田文化の森運営協議会会長

塚越恒爾

運営協議会新体制組織図

運営協議会スケジュール

■ 活躍する文化プレイヤー

夜も良し、昼もまた良し

文化プレイヤー登録大歓迎

文化プレイヤー紹介

■ Event Calendar

お年寄りに笑いと楽しみを！

大田文化の森カラオケ・盆踊り大会

廊下ギャラリー

■ Culture Information

第6回こらぼ大森夏まつり開催

ご存じですか？「万両塚」

区内阿波踊り5連、初の顔合わせ

おたの学校 花と食で育む開桜

小学校

表紙の人物 佐藤朝山

最新号 Vol.19

バックナンバー

[vol.12夏号](#)

[vol.13秋号](#)

[vol.14冬号](#)

[vol.15春号](#)

[vol.16夏号](#)

[vol.17夏号](#)

お知らせ

[大田文化の森運営協議会Webサイト](#)

もご覧下さい。

ご意見ご感想はこちらま

で**bunkanomori@nifty.com**



運営協議会は今

大田文化の森運営協議会 会長 塚越恒爾

豊かな「森」とは

この六月、初夏の沖縄にヤンバルの森を訪ねました。沖縄本島の北の端にある国頭村(くにがみそん)の小学校で、自作の童話を語るためです。

半世紀と少し昔、圧倒的な米軍の侵攻によって焦土と化した沖縄で、唯一残ったヤンバルの森は、野口ゲラの見つかったところでもあり、ヤンバルクイナの森です。

この森も、今は道路の建設で、立枯れの木々が目立ちます。飛べない鳥・クイナにとって、輸入したマングースや逃げたペットのネコ、道路の深い側溝等々と、急激に住みにくい環境になったと言います。自然と文明のバランスが喫緊の課題なのです。

訪れたのは、辺土名小学校。児童一人一人の名前が書かれたプランターが、芝生の校庭を取りまいて花の輪をつくり、梅檀の古木が日蔭を作っていました。子ども達の表情は明るく、素直な声で「こんにちは」と挨拶をしてくれます。この子ども達の主導で、クイナの「救難保護センター」が、この春、村に設置されました。傷ついたクイナが、運ばれ手当を受けるのです。

ところで皆さんは「森」という言葉に出会って、どんなイメージを持たれるでしょう。以前、NHK文化センターのマスコミ講座で、10年間、アンケートを取りました。答えの「緑、自然、静けさ、朝霧・・・」は兎も角として、「熊のプーさん、赤ずきんちゃん、魔法使い、白雪姫、ノルウェーの森、シャーウッドの森・・・」と、「ヨーロッパの森ばかりが並びます。



新会長 塚越恒爾



文化会議風景(新会長と運営協議会委員)

「若者の心に日本の森のイメージがないのは何故か」。以来、私の人生のテーマとして、「森」は心の中に棲みつきました。「森」とは、文明と対するものではなく、全ての文化の源流でしょう。豊かな「森」とは何か。地域に愛され、役立つ「森」を育てるには、何をすべきか。大森の地で、ご一緒に考えたいのです。

運営協議会スケジュール

7月1日(金)～9月30日(金)のスケジュール

■文化会議(第1・3金曜日19:00～21:00)7月1日・15日、8月19日、9月2日・16日(金)

*文化会議は運営協議会の最高議決機関で公開です。いつでも傍聴できます。

■役員会(文化会議のある週の火曜日13:30～15:30)7月12日、8月16日・30日、9月13日(火)

■将来構想懇談会(19:00～21:00)8月22日(月)

■実行委員会

○芸術事業プロジェクト(19:30～21:30)7月22日、8月26日、9月23日(金)

○誰でも楽しめるプロジェクト(19:00～21:00)7月4日、8月1日、9月5日(月)

○子ども・若者プロジェクト(13:30～15:30)7月8日、8月12日、9月9日(金)

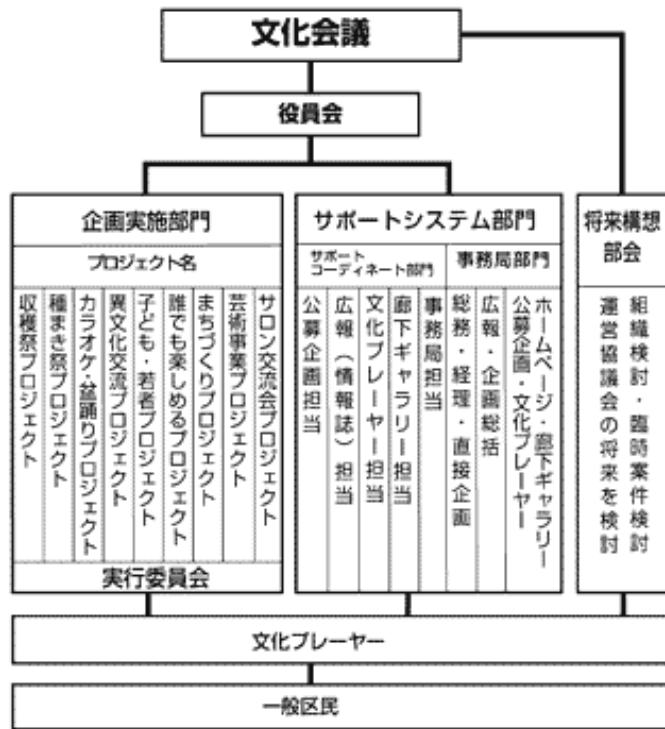
○まちづくりプロジェクト(10:00～12:00)7月7日、8月4日、9月1日(木)

○異文化交流プロジェクト(18:30～20:30)7月21日、8月18日、9月15日(木)

○サロン交流会プロジェクト(19:00～21:00)7月19日(火)、9月20日(火)(多目的室にて)

○収穫祭プロジェクト(19:00～21:00)7月20日、8月17日、9月21日(水)

会長 塚越恒爾
 副会長 福野幸雄 杵屋彌十郎 青柳博之
 将来構想部会長 福野幸雄
 事務局長 青柳博之



活躍する文化プレーヤー

文化プレーヤーの交流会も四年目、10回以上を数えた。五月七日のサロンは、初めての昼間の集いであった。いままでずっと夜間であったため、どうしても参加できず一度昼間にしてほしいという要望はあったとはいえ、正直言って、何人くらい参加いただけるか、不安もあった。ところが、第三、第四集会室満席の70人近くが参加され、実行委員会を慌てさせた。嬉しい悲鳴であった。「文化プレーヤー」の活躍が文化の森運営協議会の活動を支える源泉である。文化の森を形成し支える個々の木々が、文化プレーヤーである。その文化プレーヤーの親睦と交流、情報交換、新しいグループが生まれるきっかけ、などの貴重な「場」を提供するのが、サロンである。このサロンの内容を企画し、計画し、準備をし、当日の運営を行うために、「サロン交流会」はプロジェクトとして独立した。今後開催ごとに必ず期待されるサロンにできる自信と確かな手ごたえを痛感したのが、今回のサロンであった。



文化プレーヤーの交流会賑わう

(運営委員 福野幸雄)

文化プレーヤー登録大歓迎 自分を生かし文化の森を育む文化プレーヤー

開設当時から登録をさせていただいているこの制度は五年目を迎えます。文化の森でボランティア活動をしているみなさんを文化プレーヤーと称し、個人登録の上、活動していただくもので、平成17年度における登録者数は6月1日現在、ちょうど100名を超えました。実際に活動してみて寄せられる声の中には「地域で活動することの意義や生きがいを感じた」「友達が増えた」などがあります。その一方で「説明が不十分のため何をすればよいかかわからずとまどった」といった運営面でのご意見もありました。区民でつくりあげる文化の森だからこそ、良い点は皆で共有し、改善点はどんどん意見を取り入れてより良い活動の拠点になるようにみなさんと創り上げていきます。プレーヤー登録をご希望される方はお気軽に事務局へお問合せ下さい。

01 文化プレーヤー紹介



岩井祐一さん 収穫祭プロジェクト実行委員長

平成一六年、一七年度の収穫祭実行委員長として大活躍中の書類作成の名人。オープン以来、陶芸三グループを主宰。生まれも育ちも「大森っ子」(大森三中一期生)。お住まいは文化の森の近くで、庭にブドウ・キウイ等が繁っています。(園芸専門学校で庭木・草花・果実等を勉強)。よく文化の森を歩いています。チャンスがあったら声をかけてみてはいかがでしょうか？ 面白い方ですよ！

(運営委員 染谷昇)



北岡三子さん 異文化交流プロジェクト実行委員長

「こんにちは」と微笑みかけてくれる文化の森玄関のプランターの花々にお気づきですか。この世話をしているガーデニング委員会の代表、また、大田文化の森合唱団団長、前運営協議会委員。小柄ながら、身体全体がエネルギーのかたまりのような活動ぶり。企画の実施・運営はわかりやすく丁寧、楽しいリードで、メンバーからの信頼は厚い。現在、ブルガリアとの異文化交流企画が進行中。

(運営委員 河合良治)

奥田和子さん 芸術事業プロジェクト副実行委員長



建築家(一級建築士、建物の設計インテリアプランナー)。ビルから住宅までユニークな作品を発表している。また、デザイン専門学校で建築やインテリアデザインの教鞭もとる。多忙である。
今年、日本の四季折々の習慣行事である「お月見」や「節分」を『暮らしの中のアート』とし、日本の食文化も加え紹介する。彼女の企画は日本の文化や地域との係わり合いの中で、日常生活をもっと楽しくする魅力あふれる企画である。

(運営委員 平林貴男)

[イベントカレンダーはこちらをクリック](#)

お年寄りに笑いと楽しみを！地域に定着した『季節寄席』



文化の森で落語を聞きたいとの要望が多く寄せられ、16年度夏から運営協議会主催事業として、『季節寄席』〈夏〉〈秋〉〈冬〉〈春〉の年四回開催の運びとなりました。チケット代は前売500円、当日700円に設定し、キャッチフレーズを『お年寄りに笑いと楽しみを』『五百円玉で落語を楽しもう』として、企画に掲げました。出演者に地元中央三丁目在住で若手落語家(二つ目)の「春風亭朝之助」を中心に、前座は毎回顔ぶれを変えての開催としました。地元町会及び商店街の皆さんにご協力いただき、大田区報に掲載していただいた結果、『こんな近くで500円という安さで落語が聞ける』と毎回200人前後もご来場の盛況さ。前売のチケットも常に完売の状態です。あまりに好評でしたので、17年3月の季節寄席〈春〉はホールを使っての開催とし、「朝之助」と前座二人だけではもったいない

感があり、曲独楽の三増れ紋をゲストに迎えての賑やかな舞台となりました。前三回は五階多目的室を使っての開催でしたが、お客さんから多目的室でも「色もの」ができないかとの問い合わせが多くあり、一七年度の季節寄席〈秋〉にはゲストに粹曲の柳家紫文が出演することになりました。『笑いは健康のもと』とよく言われます。笑いと健康を振りまく季節寄席にご期待ください。また、今後とも応援をよろしくお願い申し上げます(文中、敬称は省略しました)。

(文化プレーヤー 森本謙司)

お知らせ

- 季節寄席〈秋〉9月3日(土)午後3時～5時(五階多目的室)
- チケット発売開始 8月4日 前売 500円(大田文化の森にて)
- 『季節寄席』のスタッフ募集中！

大田文化の森カラオケ・盆踊り大会

8月5・6日両日、今年も大田文化の森の風物詩、「カラオケ・盆踊り大会」が開催されます。地域との共催で始まったこの企画も今年で4回目となり、すっかり地域に定着した感があります。昨年は1階展示コーナーや音楽スタジオで子ども向けのイベントを行い、これまで以上に若い家族連れが加わり、賑わいました。今年は、これまで要望が多かったカラオケの一般参加も2日目に5名と少数ながら実現しました(募集は締切ました)。盆踊りでは、参加者に国際色もあり、「大森甚句」など地元大森にちなんだ踊りも加わり、さらに親しみを持てるものになりつつあります。今年は蒲田行進曲も観られるかと期待しています。



昨年のカラオケ・盆踊り大会 子どもも楽しみな模擬店

(運営委員 河合良治)

廊下ギャラリー「パソコンで絵を描いてみませんか？」

後藤茂雄さん(83歳)の作品展(7月4日～15日)
 「パソコンで描く絵には、水彩、油絵、水墨画のどれにもない面白さもありますよ。例えばパッと消せてパッと描ける。それから色の艶や微妙な表現が出せない分いろいろな工夫がい



パソコンと後藤茂雄さん

るし、技術的な失敗もあります。だから注意しながらのんびり描いています。」朝9時から11時の間に2階メディアコーナーに行くと、創作中の後藤茂雄さんにお会いすることができる。3年半前のメディアコーナー開設時にパソコンを使ってみた。半年ぐらいしてひとつおりの操作を覚えると飽きてしまったので、今度は絵を描いてみた。もともと絵を描くのは好きだから、鉛筆書きの下絵をもとにパソコンに向かうと楽しくて夢中になってしまう。「作品展には12枚を出します。観る人が親しみをもてるように、一番よく使われるA4サイズを安価に手に入れた額縁に入れて掛けます。」という後藤さんの作品展は7月4日から。みなさんどうぞ4階廊下ギャラリーにおいて下さい。

(運営委員 ヤマトユウコ)

大田文化の森運営協議会公募による事業

■公募による事業とは

区民の文化活動を支援するために、実施したい企画、また、運営協議会に実施してもらいたい企画を募集。団体や個人が実施する企画に、使用施設・宣伝手段などの助成をします。

■トライ！ジョイントコンサート

公募で募った大田区内で活動が続けている少人数の合唱団が主役となり、協力して開催する初の合同演奏会。

開催日時：9月11日／14:00～

会場：大田文化の森ホール

チケット：大田文化の森にて発売中。1000円(自由席)

■「収穫祭」に広場で阿波踊りを踊ろう

阿波踊りを踊りたい人に、覚えられる練習日を設け、11月3日の「収穫祭」に文化の森の広場で踊る。

練習日時：9月28日、10月5・12・19・26日／19:00～21:00

定員：抽選で50名／だれでも

参加費：無料

申込締切：8月19日必着

■日本の音・世界の音

世界に広まった和太鼓、世界から入ってきた打楽器。国境を越えたハーモニーが私たちを包み込みます。

開催日時：10月2日／16:00～18:00

会場：大田文化の森ホール

チケット：大田文化の森にて8月2日10:00～発売。2000円(自由席)

●公募企画募集のお知らせ

大田文化の森のホール・多目的室・展示コーナーを利用した企画を募集します。採用された企画には、施設使用料と付帯設備使用料の免除および実施日時の優先確保があります。

◆企画の実施期間 平成18年4月～平成19年3月

◆募集の説明会 7月13日／14:00～、17:00～

◆申込方法 所定の応募用紙で郵送または持参

◆応募要項配布先 文化の森・区民生活課・社会教育課・図書館・文化センター・区民プラザ・アプリコ

◆応募締切 8月12日必着

◆申込・問合せ先 大田文化の森運営協議会 公募係

〒143-0024 大田区中央2-10-1 電話:3772-0770 FAX:3772-0704

大田文化の森運営協議会主催事業

■主催事業とは

区民が自ら学び、演じ、交流し合っ、新しい文化を創造し、区民参画による管理運営を実現するために、実行委員会(9プロジェクト)で主に企画し、実施する事業です。

ひと・まち・もの・だれにも・いたい・じまんしたい

第2回こらぼ大森夏まつり開催

今年も「まち元気・からだ元気・ちきゅう元気」をテーマに夏まつりを開催します。

地域の方々・区民活動団体・事業者が協力し、こらぼ大森全館を挙げて楽しいイベントを行います。模擬店・フリーマーケット・盆踊り・パネル展示など、盛りだくさんな内容です。また、会場案内等当日のボランティアも多数募集しています。ふるってご参加ください。

日時:平成17年7月31日(日) 午後1時から午後8時

場所:こらぼ大森

主催:こらぼ大森運営協議会

共催:大森西地区自治・町会連合会・大田区

問合せ:大田区大森西2-16-2 こらぼ大森内

こらぼ大森運営協議会

電話:090-2558-8027

※お願い自転車での来場はご遠慮ください。



こらぼ大森夏祭り ポスター

ご存知ですか?「万両塚」



万両塚(現在改修・調査中)

お堀に囲まれた墓・万両塚は、池上照栄院と久遠林の間にある妙見坂という急な石段を登った妙見堂の奥にあります。現在は改修・調査中(平成15~18年)です。個人の墓としてはとにかく大きく、生前墓だったということも特徴です。建設費が当時(江戸時代初めの建造)で一万両かかったので万両塚と呼ばれるようになったとか、二重の堀をめぐるせてあるのはこの墓の主が蛇嫌いだったからと伝えられていました。しかし、今回の調査でそれらは誤伝であることがわかりました。

この墓の主は、紀州徳川頼宣の娘で、鳥取藩主池田光仲の正室・芳心院です。

ところで、この墓についての勉強会(万両塚クラブ)があるのです。考古学、歴史学、信仰、植生等(土中のムシの生態までも!)を学んでいるそうです。

(文化プレーヤー 永島俊子)

たて糸にヨコ糸 区内阿波踊り五連、初の顔合わせ

五月二四日、大田文化の森で、大田区内で活動している主な阿波踊り連が初めて顔をあわせた。これは、大田区内で阿波踊りを踊りたい人を公募し、11月3日の大田文化の森「収穫祭」に広場で踊ろうという企画に協力するため。

集まったのは、助六連、くすのき連、嶺嶽連、馬込文士村商店会の代表者と地域の指導者など10名。他に舞舞連は所要で欠席。各連の成り立ちや苦労話、現在の活動などの話に花が咲いた。「くすのき連」は平成二年に、助六連の協力で立ち上がった大田区役所職員中心に区内外で活躍しているおなじみの連。他の連は、糞谷商店街、御嶽商店街、馬込文士村商店会、大森町商店街など商店街の活性化にも貢献している連、30年以上の歴史を持つ連もある。

このような連の方々の協力で、9月28日から毎水曜日の夜、計5回、大田文化の森多目的室で楽



初会合の様子

編集サポーター募集！

この情報誌を共に創る方を募集します。読者の喜び・楽しみが報酬です。

(活動内容)

1.取材、記事作成、編集サポート

第1・3月曜日14:00～16:00(編集会議) その他随時取材等あり

2.情報誌配布作業

4・7・10・1月初旬の都合のよい日

宛先: 〒143-0024 大田区中央2-10-1 大田文化の森運営協議会情報誌編集長

TEL 3772-0770/FAX 3772-0704

投稿案内

このページは読者でつくります。感想、お勧めイベント・地域のほっとする情報、コラム、提言などお寄せください。

氏名(ふりがな)、電話番号を明記。掲載させていただく場合、手直しすることがあります。原稿はお返しいたしません。ご了承ください。

花と食で育む開桜小学校

■心なごむ花々

正門に入ってびっくり。あふれる野の花に包まれるほどの可憐な花々に歓迎されます。大森第二・第六小学校の両校が統合したのは平成一四年。校名は「新しい学校の将来も、桜が開花する時のように華やかになってほしい」と願ってつけられました。正門の花は、子ども達を思う校長と親の気持ちが一致して、ここまで造りだしてきました。始めは苗から育てていましたが、今では、種から育て費用は殆どかかりません。子ども達の教育環境を整える一助として、様々な世代の方々がこの活動に携わっています。入学式や卒業式には、鉢に植わったプリムラが子ども達の前途を祝福します。『ボランティアのみなさんが毎日育てているおかげで自分たちが登校・下校しているとき、きれいな花を見ているとすごく元気が出ます。特に登校のときは、今日も一日がんばるぞという気になります。これからも正門にきれいな花を育ててください。』(児童代表による感謝の言葉)。また、春には地域の方の協力で提供される一五〇〇株のチューリップが内川沿いの校庭一面を覆います。三月二六日には、地域主催で「花祭り」が開催されました。



Welcome to 開桜小、正門玄関の花



緊張する？ マナー給食

■食を楽しみ人間関係を育む

給食を通して、人と人とのつながりを体感する様々な工夫が施されています。年七回、数品のうちから一品選べる「リザーブ給食」、誕生日にはカードが添えられる、好きなメニューをリクエストできる、同学年や異学年との二人組みでランクルームでの食事、地域の方を招いての「ふれあい給食」など、そして、六年間の締めくくりとして卒業前の「マナー給食」(ハーフコース)を、給食業者と栄養士の協力を得て実施し、毎年新しい試みをしています。子どもは環境の中で体で身に付けていくという認識のもとに、学校・地域が相互に理解し合い、協力して、子どもが学ぶ環境づくりを実践している姿がここにありま。校長室には、『学校経営方針:学校は子どものためにある。』と掲示されている。

(運営委員 河合良治)

表紙の人物 佐藤 朝山

1888(明21)年、福島県の宮彫師の家に生まれ、幼時より父と祖父に木彫りを学んだ。18歳より木彫家・山崎朝雲に師事して「朝山」の号を

もらう。1914(大3)年、再興した第一回院展に「呪詛」「野人」等インド彫刻的な官能性、神秘性を持つ豊満な作品群を出品して注目される。1919(大8)年荏原郡馬込村に転居。1922(大11)年、小林古徑・前田青邨と共に日本美術院よりフランスに派遣される。二年間フランスに滞在しエジプトなどの古典彫刻を研究した。1945(昭20)年、戦災により馬込のアトリエと居宅が全焼し、多くの作品を焼失。大きく豪華であったという居宅の跡地は大田区立郷土博物館となっている。戦後は「朝山」の号を捨て「玄玄・げんげん」「阿咩洞・あうんどう」と称する。1960(昭35)年、10年を費やして三越デパート本店の「天女(まごころ)像」を完成させた時は、72歳であった。その3年後の1963(昭38)年、住まいにしていた京都妙心寺大心院で死去。75歳。



佐藤朝山(彫刻家)
1888～1963年福島県生まれ

(文化プレーヤー 永島俊子)

ティーラウンジすばる



大田文化の森一階
ソフトドリンク／ビール
軽食／デザート／各種セットメニュー
夏季のおすすめ
●冷やし梅おぼろうどん
●しゅうあん(しゅうの皮にほんのり甘い小倉あん入り。木曜限定品)

情報誌OBMはここにあります

■区内公共施設

図書館、文化センター、区民センター、地域行政センター、特別出張所、エセナ、こらぼ大森、産業プラザ、アプリコ、区民プラザ、大田文化の森、その他

■その他

区内郵便局、区内城南信用金庫各支店、東京都民銀行(大森・蒲田支店)、近隣地域協力商店など

編集後記

誌面大刷新版をお届けします。「スッキリ、見やすく、わかり易く」を目指してようやく。出来映えはいかが。ご意見をお待ちしています。

多くの方々にアンケートやご意見をいただきました。感謝いたします。

「ひと・まち・もの・だれにも・いいたい・じまんしたい」は読者が創る誌面です。乞う！投稿。